

平成24年 7月17日

岩沼市議会議長 高橋孝内 殿

会派 市民ネットワーク  
代表 森 繁 男

## 調査研究報告書

調査地 高知県南国市

調査日 平成24年7月2日(月)

調査項目 地震防災対策について

津波防災対策については、歴史的に100年から150年の間で発生している南海地震が30年以内に起きる可能性は50%から60%で、50年では80%以上であると高知県では公表されている。それにより高知県において、災害に強い地域社会づくり条例を制定している。南国市もそれにより独自に政策を展開している。地震・津波防災マップを作成し、全戸配布し、災害時における支援体制の自主防災組織防災組織をつくり、災害に向けた強化体制をしいている。また、防災備蓄倉庫も建設をして、更には太陽光発電を利用した、避難誘導灯等も備えている。

広域防災体制についても、各市町村と災害時相互支援協定を締結しており、広域連携の強化にも努めている。

今後の課題は、海岸の避難所の確保や全般的な施設の耐震強化対策が必要とされる。

### まとめ

平成23年3月11日の東日本大震災における教訓が南国市においても学び、検討を重ね対策がしかれているようだ。しかし、決して万全の対策なのかどうかは、検討を重ね想定外の事態に対応できる備えを詳細に検証ししていくべきであると感じた。

今後、岩沼市においても、東日本大震災より最悪な想定外の事態にも備えをどこまですればいいのか、検証が必要と感じた。

調 査 地 愛媛県宇和島市

調 査 日 平成 24 年 7 月 3 日(火)

調査項目 観光行政について

観光行政を進めるに当たり、旅行の多様化に伴い、観光業界の動きを把握し、自ら行政において旅行プランを作成し、個々に売り込む積極的な観光行政を図った。また、ボランティア等の地域密着型の旅行のニーズにも対応を図り、経済効果が徐々に見えてきている。

#### まとめ

宇和島市の観光行政の取り組みは、行動力を生かし、独自性の施策により進められている。宇和島市の風土や風景、観光スポットをみると観光資源があるにもかかわらず旅行の多様化に対応するために努力を重ねている。

岩沼市においては、観光資源の貧困さがあり、今の資源をどう生かして観光に結び付けるのか、また、新たな資源を見出すのかが今後の課題と思われる。

今回の研修で学んだことは、資源がある地域でも努力をしている。なお一層の努力をしなければ観光としてのまちづくりとしての発展はない。